

臨床の現場から



当院の乳腺疾患の治療

— 乳癌発見、治療のためのチーム —

乳腺外科 梅岡 達生

乳癌をはじめとする乳腺疾患は、外科で診療をしております。2005年より乳腺専門外来を設立し、放射線科、超音波検査部、病理部との連携のもと、亀井義明医師、村上朱里医師とともに週に2日(月曜日・木曜日14:00～16:00)、1日約10～20名の外来患者さんの診察を行っております。

1. 乳腺専門外来の流れ

乳腺外来では検診後の精査をはじめ乳房腫瘍や乳房痛等さまざまな患者さんに対応しています。乳癌、乳腺線維腺腫、葉状腫瘍、乳頭腫、乳腺症、乳輪下膿瘍、乳腺嚢胞、乳頭異常分泌、女性化乳房等が対象となっています。

まず外来診察室での視触診を行い、その後にマンモグラフィ、乳腺超音波検査を行います。当院のマンモグラフィは、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会にて認定を受けています。撮影はすべて女性のマンモグラフィ認定放射線技師で対応しており、撮影された画像は十分に経験を積んだ(読影資格を有した)医師によりダブルチェックをしています。乳腺超音波検査は高解像度の最新式の機器を用いています。また、エラストグラフィ(腫瘍の硬さを数値化する装置)も搭載されており診断の一助としていま

す。そして、腫瘍性病変が疑われた場合には穿刺吸引細胞診を行います。ここまですべてを初診の日に行い、細胞診は病理医、病理検査技師の協力にて迅速に対応しています。

乳腺MRI、MDCT、針生検等も正確な診断のため積極的に取り入れており、またマンモグラフィでのみ描出され、他の検査では描出できない病変に対してはステレオガイド下マンモトーム生検を行います。

不安を抱えて受診された方の気持ちができるだけ早く晴れることを第一に考えて診療するようにしています。

2. 治療について

乳癌治療は手術療法、化学療法、内分泌療法、放射線療法の組み合わせにて行っています。

i) 手術療法

進行度に応じて乳房温存療法、乳房切除術を行います。術後の上腕浮腫を予防するために必要な腋窩郭清の省略のため、センチネルリンパ節生検を2005年より実施しています。

ii) 化学療法、内分泌療法

大規模試験やガイドラインに準拠した最新のエビデンスにもとづいた治療し、患者さんの不利益にならないよう心がけています。化学療法は外来化学療法室にて行っており、術前化学療法も積極的に実施し、乳房温存率の向上、治癒率の向上を目指しています。また抗癌剤のなかには心毒性等の



↑エコー検査(手前より村上医師、亀井医師)

合併症を引き起こしやすい薬剤もありますので、少しでも異常が疑われた場合には早めに専門の医師の診察を受けるようにしています。

iii) 放射線治療

乳房温存手術後および再発乳癌に対し自施設にて行っています。

乳腺疾患の診療は乳腺外科が中心となっておりますが、他の検査部や診療科との連携が欠かせません。この連携の良さが当院の最大の特徴となっています。チームワークを生かし、今後も地域医療に貢献できるよう、質の高い診療を行っていかうと考えています。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



←マンモグラフィ認定放射線技師